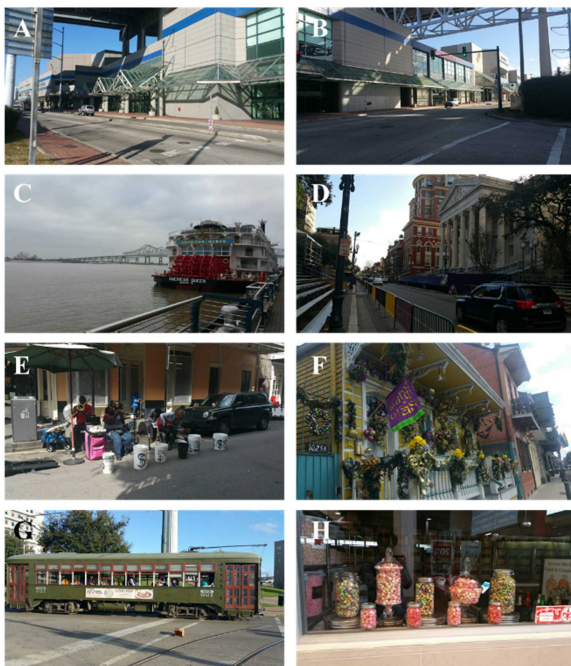




東京大学大学院 総合文化研究科
広域化学専攻 生命環境科学系
矢島研究室 修士 2年
松田恭平

2017年2月10日から15日にアメリカのルイジアナ州ニューオーリンズにて開催された Biophysical Society 61st Annual Meeting に参加した。この年会は世界中の生物物理学者が集まり議論を交わすことができる貴重な機会であり、自分の興味のある研究分野の現時点での動向・進展について情報を収集することができた。また、最終日15日には Autonomous structure formation and contraction of actomyosin regulated by contractile ring related cross-linking proteins (CRCPs). というタイトルでポスター発表を行った。拙い英語での発表であったが、指摘やアドバイスなどを頂くことができ、有意義な時間となった。



A, B: コンベンションセンター C: ミシシッピ川 D: 街並み E: ストリートジャズ F: ニューオーリンズ・マルディグラ(祭り) G: 路面電車 H: カラフルなお菓子

開催地となったニューオーリンズはアメリカ南東部に位置するミシシッピ川(写真 C) と隣接した温暖な地域である。タバスコとジャズ(写真 E) が有名であり、とりわけジャズは、街を歩けばいたるところから聞こえてくる。多少治安の悪い印象も受けたが、陽気な人柄の人が多く、拙い英語でも楽し気にコミュニケーションをとってもらえる。学会開催場所であるコンベンションセンター(写真 A,B) 付近は観光地であり、買い物やホテルに困ることはほとんどないと思われる。

今回、広域科学専攻 博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成によって国際学会に参加する機会を頂いたことに深謝し、報告書の締めとする。